

広島女学院大学大学院言語文化研究科

修士論文提出に関する手引き

2018.10.10 改正

- 1) 修士学位授与方針、学位論文審査基準、研究指導方法
- 2) 修士論文提出までのスケジュール
- 3) 修士論文の書式
- 4) 修士論文提出時の提出物と部数
- 5) 修士論文提出後のスケジュール

修士論文計画書

論文審査基準到達度チェックシート

## 1) 修士学位授与方針、学位論文審査基準、研究指導方法

### [修士学位授与方針]

言語文化研究科修士課程は、本研究科の教育・研究目標に掲げる人材育成の方針に沿った研究活動を行い、所定の単位を修得し、次に掲げる修士学位論文審査基準にもとづく論文の審査を経て、専門分野における研究能力を修得したとみなされる学生に修士の学位を授与する。

### [学位論文審査基準]

1. **テーマの選定**：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
2. **研究方法の適切性**：テーマに即した適切な研究方法がとられていること（データ、資料、作品、例文などの処理・分析・解釈の仕方も含む）。
3. **論旨の妥当性**：結論を導く根拠が客観的かつ論理的に提示されており、この根拠にもとづき、当初設定した課題に対応する明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
4. **文章表現力**：論文に相応しい表現が用いられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っていること。
5. **倫理的配慮**：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守していること。

### [研究指導方法]

言語文化研究科修士課程において、指導教授は、他の教員（本学修士課程担当の専任教員に限る）を、学生の研究テーマとの関連で指導や助言を受けさせたい副指導教員として推薦し、研究科委員会に諮り、決定する。副指導教員は、指導教授と相互に連携を図りながら、学生の求めに応じて、指導教授とは異なる専門性や観点に基づいた助言や指導を行う。指導教授・副指導教員は、実際の事象と向き合う課題設定や問題意識の持ち方についての重要性を指導するとともに、学生のテーマに即して、専攻・分野の研究のあり方（研究の広がりや様々な研究課題との関連性など）についても指導する。なお、学生には、自らの関心と指導教授・副指導教員の指導に基づき、他の教員の科目をより多く修得することが望ましく、これによって関連専門分野に関する幅広い知識や論文作成上の技術を修得させる。

論文審査は、指導教授を主査とし、研究科委員会が選んだ2名の副査委員を加えて、計3名で行う。研究科委員会において必要と認めたときは、他の大学院又は研究所等の教員等を副査委員として選出あるいは追加することができる。

最終試験に当たる口頭試問は、論文審査委員を含む研究会委員会を選んだ3名以

上の試験委員がこれを行う。研究科委員会において適当と認めるときは、大学の教員等で高度の学識を有する者を試験委員に加えることができる。口頭試問は、試験委員以外の教員及び学生の参加も可能なかたちで行い、これら参加者との質疑応答を含む。

2) 修士論文提出までのスケジュール<sup>1</sup>

修士課程 一年	4月上旬～中旬	● 指導教授届提出 ⇒ 教務課
	5月～6月	● 日言文春季研究発表会発表申し込み ⇒ 教務課 (1年生の発表は自由。ただし、言語文化論叢に投稿予定の人は必ず発表)
	6月～7月	● 日言文春季研究発表会、英米文春季研究発表会
	10月～11月	● 日言文秋季研究発表会発表申し込み ⇒ 教務課 (1年生は必ず発表)
	10月31日12:00 (休日の場合は翌日)	● 論文計画書(1回目)の提出 ⇒ 教務課 ● 修士論文題目届提出 ⇒ 教務課
	11月～12月	● 日言文秋季研究発表会、英米文秋季研究発表会 ● 指導教員と共に研究計画、論文到達度をチェック
修士課程 二年	4月下旬	● 修士論文題目変更届提出 ⇒ 教務課
	4月30日12:00 (休日の場合は翌日)	● 論文計画書(2回目)の提出 ⇒ 教務課
	5月～6月	● 日言文春季研究発表会発表申し込み ⇒ 教務課 (2年生は必ず発表)
	6月～7月	● 日言文春季研究発表会、英米文春季研究発表会 ● 指導教員と共に研究計画、論文到達度をチェック
	10月～11月	● 日言文秋季研究発表会発表申し込み ⇒ 教務課 (2年生の発表は自由) ● 修士論文予備審査用電子化データ提出 ⇒ 指導教員 ● 修士論文予備審査(主査1名・副査2名、※原則、予備審査を受けないと学位論文を提出できません)
	11月～12月	● 日言文秋季研究発表会、英米文秋季研究発表会 ● 指導教員と共に研究計画、論文到達度をチェック
	1月20日12:00 (休日の場合は翌日)	● 修士論文提出締め切り 論文3部と要旨4部を提出 ⇒ 教務課 (指導教員の許可を得て提出すること)

<sup>1</sup> 具体的な日時は、年度によって異なります。具体的な日時は、ポータルの「お知らせ」「連絡事項」等で確認してください。

修士課程三年以上 (前期修了予定者)	5月～6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日言文春季研究発表会発表申し込み ⇒ 教務課 (3年生以上の発表は自由。ただし、言語文化論叢に投稿予定の人は必ず発表)</li> </ul>
	6月～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日言文春季研究発表会</li> <li>● 修士論文予備審査用電子化データ提出 ⇒ 指導教員</li> <li>● 修士論文予備審査(主査1名・副査2名、※原則、予備審査を受けないと学位論文を提出できません)</li> </ul>
	8月31日12:00 (休日の場合は翌日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 修士論文提出締め切り 論文3部と要旨4部を提出 ⇒ 教務課 (指導教員の許可を得て提出すること)</li> </ul>
修士課程三年以上 (後期修了予定者)	10月～11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日言文秋季研究発表会発表申し込み ⇒ 教務課</li> <li>● 修士論文予備審査用電子化データ提出 ⇒ 指導教員</li> <li>● 修士論文予備審査(主査1名・副査2名、※原則、予備審査を受けないと学位論文を提出できません)</li> </ul>
	11月～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日言文秋季研究発表会、英米文秋季発表会 (3年生以上の発表は自由。)</li> </ul>
	1月20日 12:00 (休日の場合は翌日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 修士論文提出締め切り 論文3部と要旨4部を提出 ⇒ 教務課 (指導教員の許可を得て提出すること)</li> </ul>

### 3) 修士論文の書式

[日本語文化専攻]

- (1) A4の用紙を使用していること。(縦書きまたは横書き)
- (2) 使用言語, 字数は指導教員の指示に従うこと。
- (3) 書式は指導教員の指示に従うこと。
- (4) 要旨は指定の用紙に日本語で600字以内にまとめること。

[英米言語文化専攻]

- (1) A4の用紙を使用していること。
- (2) 使用言語は英語とし、枚数が50枚以上であること。ページ設定はA4版で、横65字縦25行とする。
- (3) 書式は指導教員の指示に従うこと。
- (4) 要旨は指定の用紙に日本語で600字以内にまとめること。

### 4) 修士論文提出時の提出物と部数

指導教員の承認を得た上で、論文3部、要旨4部を教務課に提出してください(3月修了予定者は1月20日12時締め切り・10月修了予定者は8月31日12時締め切り)。

[日本語文化専攻]

表紙は、提出日までに必要部数分を教務課で購入してください。

[英米言語文化専攻]

ダブルクリップで留めて、一部ずつ封筒(修士論文が入る封筒)に入れ、封筒の表には、修士論文の表紙を貼ってください。

5) 修士論文提出後のスケジュール<sup>2</sup>

3月修了予定者	2月中旬	● 口頭試問（主査1名・副査2名）
	2月下旬	● 言語文化研究科委員会で論文の可否審査
	口頭試問 ～3月1日	● 図書館製本保管用論文（要旨付）を教務課に提出。教務課で製本代を払う。
	3月上旬	● 言語文化研究科委員会で修了判定 ● 修了者公示
	3月14日	● 学位授与式前日に学位授与式練習
	3月15日	● 学位授与式
10月修了予定者	9月中旬	● 口頭試問（主査1名・副査2名）
	9月下旬	● 言語文化研究科委員会で論文の可否審査ならびに修了判定 ● 修了者公示
	口頭試問 ～9月下旬	● 修了者公示後2週間以内に図書館製本保管用論文（要旨付）を教務課に提出。教務課で製本代を払う。
	10月3日	● 学位授与式

<sup>2</sup> 具体的な日時は、年度によって異なります。具体的な日時は、ポータルの「お知らせ」「連絡事項」等で確認してください。



年 月 日提出

修士論文計画書

論文作成者名
指導教員名

論文題目

研究・論文作成計画		指導計画	
1年目		1年目	
10月		10月	
11月		11月	
12月		12月	
1月		1月	
2月		2月	
3月		3月	
2年目		2年目	
4月		4月	
5月		5月	
6月		6月	
7月		7月	
8月		8月	
9月		9月	
10月		10月	
11月		11月	
12月		12月	
1月		1月	
2月		2月	
3月		3月	

論文審査基準到達度チェックシート

論文作成者名
指導教員名

論文題目

1. テーマの選定：	研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。	<input type="checkbox"/> 現段階において適切。 <input type="checkbox"/> 現段階において不適切。
2. 研究方法の適切性：	テーマに即した適切な研究方法がとられていること（データ、資史料、作品、例文などの処理・分析・解釈の仕方も含む）。	<input type="checkbox"/> 現段階において適切。 <input type="checkbox"/> 現段階において不適切。
3. 論旨の妥当性：	結論を導く根拠が客観的かつ論理的に提示されており、この根拠にもとづき、当初設定した課題に対応する明確かつオリジナルな結論が提示されていること。	<input type="checkbox"/> 現段階において客観性、論理性が満たされている。 <input type="checkbox"/> 現段階において客観性、論理性が満たされていない。 <input type="checkbox"/> 現段階において結論の独自性が見込める。 <input type="checkbox"/> 現段階において結論の独自性が見込めない。
4. 文章表現力：	論文に相応しい表現が用いられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っていること。	現段階での完成度をパーセンテージで記入してください。  %
5. 倫理的配慮：	研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守していること。	<input type="checkbox"/> 現段階において適切。 <input type="checkbox"/> 現段階において不適切。